

しま 地域だより 9月号

サザンクリーンセンター推進協議会

湧水 地域の井

上ヌカー

所在地/八重瀬町字高良



さとうきび畑に囲まれた高台の一角にある「上ヌカー」。

八重瀬町字高良にある井泉で別名「高良ガ-」、または「ユヤシンガ-（夜闇）」と呼ばれている。

螺旋（らせん）状になり深く掘り込まれており、取水口までは石段が取り付けられている。井泉の上空にはガジュマルなどの大木が覆いかぶさるように茂っているため、周囲はひんやりとして薄暗いが、木々の隙間から木漏れ日が差し込むと、神秘的な空

気が辺りを包み込む。

この一帯は昔から水に恵まれなかったが、カ-が掘り当てられてからは地域の大事な水瓶として水道が整備されるまで利用されていた。

水脈を発見した高良の山城家の子孫の方にお話を伺った。「畑仕事の際、湿った土壌を発見した先祖はこの地中に水脈があると確信し、地面を掘り始めた。硬い岩が多くとても難儀な作業だったが、村の人々と協力して遂に完成させたんだよ。この話は先祖代々から一族に語り継がれているさ。雨水を溜めて飲んでいた時代に、あのカ-のおかげで水に困ることなく夏でも冷たいおいしい水が飲めた。私たちにあってなくてはならないカ-だったよ」。

多くの命を育んだカ-は、今なお潤れることなく静かに湧き続けている。

施設建設選定部会(第一部会)開催

ごみ処理方式3案を比較評価

第一部会(照屋義実部会長)の会議が、8月22日午後2時から八重瀬町農村環境改善センターで開催された。これまで6回にわたる検討会、講師を招へいしての全国のごみ処理状況の勉強会、県内外の先進地視察の成果等を踏まえ、サザン協のめざすごみ処理方式の第一部



南部総合福祉センターで

会の考え方をまとめるためのものである。

会議では、ケース1「被覆型最終処分場」、ケース2「被覆型最終処分場+灰溶融施設」、ケース3「ガス溶融施設」の3つの方式について検討した。(詳細は次頁で)

その中で委員からは、東部・島尻の既存の施設が稼動している中で、ごみから一括して処理するケース3のガス溶融方式は、現時点では考えられないのではないか。また、建設、ランニングコスト等を考えた場合、被覆型最終処分場の建設が望ましいが、これまでの取り組みの経緯から埋立処理する施設は、住民合意に厳しいものがある等それぞれの方式について意見が交わされた。

議論の末、第一部会としては3方式の総合評価を行い、併記した形で理事会での決議を仰ぐこととなった。

第二部会・理事との合同会議を開催

強い指導力で建設を!

引き続きサザン協理事及び第一部会委員との合同会議が開かれた。古堅会長のあいさつの後、第一部会の照屋義実部会長から先に開催された会議の報告がなされた。

照屋部会長は、「近年のごみ処理技術の進歩を踏まえ、3つの方式に絞って取りまとめるに至った。」



部会報告をする照屋部会長(八重瀬町の農村環境改善センターにて)

理事会では、設置目的、財政面を考慮して討論していただきたい。建設コスト、ランニングコスト等財政面が大きな課題である。

糸満市の加入を含めた方向性を再度追求すべきである、との意見もあった。

首長の決断、議会の大極的な判断が求められる。

3つの処理方式は一長一短あり、結論を出すには極めて大きな判断が必要であり、第一部会の討議内容を踏まえて理事会で選定していただきたい」と説明した。

これを受けて古堅会会長は、「6回にわたる議論を踏まえた第一部会のまとめという形で受けとめたい。皆さんのご報告を受けて、理事会で最終決断をしたい。」と述べた。

なお、理事会は9月下旬の開催予定である。

委員からの発言内容は次の通り

■サザン協の問題を各議会がどのくらい取り上げたのか。

■ごみ問題は21世紀の人類の知恵である。首長がリーダーシップをとって建設してほしい。

■政治生命を賭けるとの発言があったのかもしれない。し尿、ごみ、斎場もどうするのか。これも大事である。

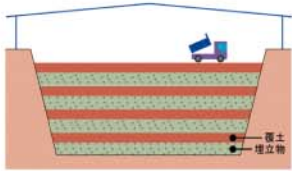
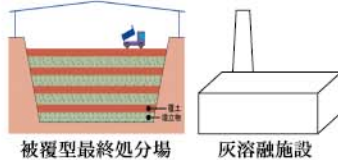

■CO2削減大会を行ってほしい。

■専門家をいれたシンクタンクが必要。市町に建設推進委員会を設置し取り組んでほしい。



活発な意見交換が行われた合同会議

三方式比較及び評価

	ケース1	ケース2	ケース3
処理方式	被覆型最終処分場	被覆型最終処分場+灰溶融施設	ガス化溶融施設
概要			
技術的特徴	<p>被覆型の最終処分場は、焼却残渣などを雨水、飛散防止等の為、処分場に屋根を付けた施設である。焼却残渣等を埋立その上から飛散防止等のため散水し、その汚水を集め水処理施設で処理(無害化)をする。</p>	<p>灰溶融設備は、燃料方式・電気方式に大別され、焼却灰を投入し熱源を加え加熱し、1300~1400℃にして灰を溶かす。溶融後、スラグ・メタルの他に溶融飛灰が生成される。スラグは、道路舗装用材、二次製品(インターロッキングブロック等)に、メタルは、重機のカウンターウエイトなどに有効利用。飛灰は重金属を取り出し再利用するシステム(山元還元)が確立されている。</p>	<p>ガス化溶融には流動床方式・キルン方式・シャフト方式・ガス化改質方式に大別される。 溶融後は、スラグ・メタルの他に溶融飛灰が生成される。スラグは、道路舗装用材、二次製品(インターロッキングブロック等)に、メタルは、重機のカウンターウエイトなどに有効利用される。</p>
施設規模	敷地面積: 36,000m ² (180×200) 容量: 120,000m ³	敷地面積: 30,000m ² (150×200) 容量: 45,000m ³ (最終処分場) 日量: 23t (灰溶融施設)	敷地面積: 15,000m ² (100×150) 日量: 160t
建設費	3,150,000千円	2,000,000千円(最終処分場) 2,000,000千円(灰溶融施設)	60,000千円/t~80,000千円/t
維持管理費(年間)	57,000千円 80,000千円(飛灰処理費(山元還元))	12,000千円(最終処分場) 337,000千円(灰溶融施設) 65,000千円(飛灰処理費(山元還元))	400,000千円~500,000千円 (飛灰処理費含む(山元還元))
県内外施設状況	<ul style="list-style-type: none"> ■ 宮崎県都城市(最終処分場) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 浦添市(燃料式・灰溶融施設) ■ 那覇市南風原町環境施設組合(電気式・灰溶融施設) ■ 宮崎県都城市(最終処分場) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中部北環境施設組合(うるま市)シャフト方式(酸素) ■ 有明広域行政事務組合(熊本県)流動床方式 ■ 玄界環境組合古賀清掃工場(福岡県)キルン方式 ■ 玄界環境組合宗像清掃工場(福岡県)シャフト方式(コークス) ■ 県央県南広域環境組合(長崎県)ガス化改質方式
環境への影響	<p>被覆構造物であるため雨水、飛散等の防止ができ、外部の生活環境への影響が大幅に軽減できる。 ただし、埋立完了後も廃棄物を安定化(閉鎖)させるため長期間の水処理が必要になる。</p>	<p>被覆型最終処分場はケース1と同様であるが焼却灰の埋立を行わないことから(不燃残渣のみ)閉鎖までの期間がケース1に比べ短くすることが期待できる。 灰溶融施設については焼却灰・飛灰を高温で処理するため排ガスが発生するが基準値以下を遵守するため住民生活に影響を及ぼすことはない。</p>	<p>廃棄物等を高温処理するため、排ガスが発生するが基準値以下を遵守するため住民生活に影響を及ぼすことはない。 ただし、コークス等を使うことからCO₂の排出量が増加する。</p>
考察	<p>最終処分場は、ランニングコストが他の方式に比べ安価であるが、広大な敷地面積が必要である。循環型社会の形成からすると焼却灰を埋立処分するよりも、できる限り資源化することが望ましい。</p>	<p>複合施設のため、広大な敷地面積が必要。建設コスト、ランニングコストも割高になるが、焼却灰を溶融しスラグの有効利用を図ることで減容できることから最終処分場の縮小ができる。</p>	<p>残渣が出ないことから処分場を造ることが困難な自治体が採用している。建設コスト、ランニングコストは割高になる。</p>

市町長会議

将来を見据えた
ごみ処理計画を議論

8月6日(月)、サザンクリーンセンター推進協議会の市町長会議が八重瀬町の南部総合福祉センターで行われた。

この日の会議は、サザンクリーンセンターの建設に当たって、財政、建設コストの問題、既存施設との統合のあり方など、現実的な議題を話し合うために開催されたものである。その中で、施設建設については、将来を見据えた、ごみ処理計画を

5市町副長会議を開催

8月9日(木)に組合会議室において、5市町副長会議が開催され、コンサル選定方法とごみ処理のあり方について、財政面からの情報



コンサル選定とごみ処理のあり方について検討された

勘案し、コストを最重点に考えるべきであるとの話し合いがなされ、統合についても、今後、資料・データを作成し、引き続き議論していくことになった。



さまざまな問題について議論された

交換が行われた。

コンサル選定については、「選定委員に各清掃組合事務局、サザン協の事務局も加えたらどうか。副長のみでは難しい」などの意見があった。

続いて、「ごみ処理のあり方についての情報交換が行なわれ、事務局から、資料の説明がなされた。副市長からは「建設の方向性として、コスト面から考えると焼却灰等の残渣を埋め立て処理する被覆型最終処分場建設が望ましい」「ごみ処理の方向性として、将来のことを考えると糸満市も加えたほうが良い。」などの意見が出された。今後引き続き会議を重ねていくことで確認された。

第1部会

先進地視察の報告を行う

第1部会の第5回会議が、7月24日に南部総合福祉センターで開かれ、7月2日から6日の日程で、福岡、熊本、宮崎での先進地視察研修の報告がなされた。各委員から出された意見や感想は次の通り。

◆6施設を視察して、迷惑施設ではないと確信した。(与那原町住民代表)
◆先進地では「係争中も建設を進め、最終的に和解している」情報を公開し、50回近く説明会を開いた。決

東部・島尻組合議員先進地を視察

8月14日、16日にかけて、福岡、熊本、宮崎の施設を視察した組合議員、施設の感想を次のように述べた。

- 島袋賢栄(島尻消防清掃組合議長) 重要な決定事項に、首長は政治生命を懸けて取り組んでもらいたい。
- 金城吉夫(糸豊清掃施設組合議員) 各組織の長が住民の合意形成に向けて何度も足を運ぶ必要がある。
- 上原 晃(東部清掃施設組合議員) 収穫は多かった。住民の理解を得るため、今後の議会活動に向けて勉強したい。
- 玉城正光(東部清掃施設組合議員) 事務局の広報活動の不足を感じた。処理施設建設について、首長は腹をくくって取り組むべきである。
- 仲村勝秀(東部清掃施設組合議員) 施設は大変すばらしい。我々が見て感じたことを、いかに住民に伝えることが出来るか。問題は広報活動にある。

して迷惑施設ではない。各市町で推進組織を立ち上げて進んで欲しい。(南城市住民代表)

◆迷惑施設でないという認識が一層強まった。技術的な部分を勉強して、反対の声に対応していきたい。(豊見城市住民代表)

◆関心があったのはごみを一括して処理できるガス化溶融方式である。技術的な点や各方式のメリット、デメリットを一覧表にして欲しい。(西原町住民代表)

●玉井正幸(東部清掃施設組合議員) 最終処分場を造らない方向で進むべき。地域から拳がってきた要望を踏まえ、振興策を策定すべき。

●上原昌之(東部清掃施設組合議員) きれい事では解決を図るのは難しい。トップのアイデアで一步先に進むことが出来るはず。

●照喜名智(東部清掃施設組合議員) 処理方式については、次世代型と呼べるすばらしいものが入れられている。我々が誠意を持って行動すれば、自ずと解決の方向に向かうだろう。

●大城純孝(東部清掃施設組合議長) 目の前の課題を解決するために、最低限の処分場建設は必要。溶融施設の建設はコスト面、稼働面でクリアすべき問題点が多い。

●国吉治(東部清掃施設組合事務局) 灰溶融炉施設と最終処分場の方式は、安全性、安定性において長い歴史があるのも事実。何がベストなのかを、今一度議論する必要がある。



県内、県外の先進地視察の報告がなされた



クリーンコアたかざきの最終処分場

サザン協9月のスケジュール

- 9月初旬 ごみ担当事務局会議
- 9月中旬 5市町長会議
- 9月下旬 理事会

発行者
サザンクリーンセンター
推進協議会会長 古堅國雄

住所
〒901-0401 島尻郡八重瀬町
字東風平965番地

電話
098(998)8857

FAX
098(998)9420

http://sazankyo.net